



2019年10月24日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106
アウディ コミュニケーションセンター

全セグメントの電気自動車をカバーする 4 種類のプラットフォーム (ドイツ本国発表資料)

2019年10月7日、インゴルシュタット：アウディは、コンパクトセグメントからハイパフォーマンスモデルに至るまで、製品ポートフォリオを電動化するための、一貫したアプローチを採用しています。この目的のため、グループ全体の相乗効果を活用しながら、開発と生産の両面で 4 種類のプラットフォームを使用しています。これによりアウディは、あらゆる車両セグメントにおいて、最適なソリューションをお客様に提供することが可能になっています。アウディ初の量産電気自動車、Audi e-tron SUV は、モジュラーロングチューディナルプラットフォーム (MLB EVO) を使用して開発されました。4 ドアグランツurisモの Audi e-tron GT concept は、ポルシェと緊密に協力して開発した J1 プラットフォームをベースにしています。よりコンパクトな電気自動車は、フォルクスワーゲングループの多目的なモジュラーエレクトリフィケーションプラットフォーム (MEB) に基づいており、さらに、革新的なフルサイズクラスのクルマには、新しいプレミアムプラットフォームエレクトリック (PPE) を使用しています。

MLB EVO をベースにしたアウディ初の電気自動車：Audi e-tron

Audi e-tron は、アウディの電動化時代の始まりを告げるモデルです。この SUV モデルは、e モビリティとアウディの品質を組み合わせた最初のクルマとして、洗練された駆動および回生システム、4 輪駆動、最高の快適性を融合しています。“Vorsprung durch Technik” (技術による先進) を体現する Audi e-tron は、従来の MLB をさらに進化させた、モジュラーロングチューディナルプラットフォーム (MLB EVO) をベースにしています。その基盤となっているのは、車両センターの下部とルーフに数多くの革新的な構造を備えた新しいボディ形状です。

ホイールベースは 2,928mm で、Audi Q5 と Q7 SUV の中間的なサイズに設定されています。高電圧バッテリーは最大 95kWh のエネルギー容量を備え、WLTP モードで 400km 以上の航続距離を実現しています。これは主に、使用したエネルギーの最大 30% を減速時に回収できる、革新的な回生システムによって達成されました。このフルサイズ SUV に搭載されている 2 台の非同期モーター (ASM) は、300kW の最大合計出力を発生し、極めて迅速に路面の状態に合わせて調整可能な電動 4 輪駆動システムと連携して、あらゆる地形でスポーティかつ安定したパフォーマンスを実現しています。Audi e-tron は、交流と直流の両方で充電可能で、最大 150kW の充電容量に対応した最初の量産車です。これは、非常に効率的な熱管理によって実現しています。

J1 パフォーマンスプラットフォーム：Audi e-tron GT concept

アウディは、2018 年のロサンゼルスオートショーで、Audi e-tron GT concept を発表し、近い将来に登場する高性能グランツurisモの姿を示しました。Audi e-tron GT concept は、アウディブラン



「シグネチャーモデル」として、電気自動車であってもエモーショナルな走りを実現できることを印象付けています。このコンセプトカーは、スポーティで表現力豊かなデザインにより、ドライバーの情熱を呼び起こすと同時に、魅力的なテクノロジーも満載し、ポルシェが電気自動車用に開発した J1 パフォーマンスプラットフォームをベースに開発されました。

Audi e-tron GT concept には、434kW (590hp) のシステム出力と 830Nm のシステムトルクを発生する 2 つの永久磁石同期モーター (PSM) が搭載されています。この 4 ドア GT は、0~100km/h を 3.5 秒で、0~200km/h を 12 秒で加速し、最高速度は 240km/h に達します。Audi e-tron GT concept は、必要に応じて短時間で充電することができます。800V の高電圧充電システムにより、出力 350kW の DC 充電ターミナルを使用すれば、約 20 分でバッテリー容量の 80% まで充電することができます。Audi e-tron GT concept は、1 回のバッテリー充電で 400km 以上の後続距離を実現しています (WLTP モード)。

バッテリー容量は 90kWh 以上で、前後アクスル間のアンダーボディに搭載されています。バッテリーパッケージは、リヤシートの足元部分が低くなるように設計されています。これにより、すべての乗員がゆったりとシートに座ることができます。この特別なレイアウトにより、典型的なスポーツカーの低い車高にもかかわらず、駆動バッテリーを車両フロアに搭載することが可能になりました。これによって、重心が非常に低くなると同時に、快適なシートポジションも実現しています。軽量設計のボディと炭素繊維強化プラスチック (CFRP) 製のルーフは、マルチマテリアル構造の原理に従って製造されています。生産型に近い全長 4.96m、全幅 1.96m、全高 1.38m のボディ寸法により、Audi e-tron GT concept は典型的なグランツーリスモのプロポーションを備えています。

フロントおよびリヤアクスルに電気モーターを搭載した quattro ドライブと、低い重心の組み合わせにより、スポーツカーにとって理想的な条件が整っています。駆動システムは、必要に応じて前後アクスル間に電気モーターのトルクを配分し、ホイールを個別に調整します。オールホイールステアリング (4 輪操舵)、スポーツディファレンシャルといった高度なテクノロジーにより、数多くのサスペンションおよびパフォーマンス関連の機能が実現し、優れたトラクションとハイレベルな車両ダイナミクスを提供します。

市販モデルでは、出力が異なる電気モーターと、容量が異なるバッテリーが用意される予定です。

アウディによる電気自動車の世界を体現：MEB をベースにした Audi Q4 e-tron concept

モジュラートランスバーサルツールキット (MQB) は内燃エンジンを搭載したモデル用ですが、モジュラーエレクトリフィケーションプラットフォーム (MEB) は電気自動車専用開発されたプラットフォームです。アウディは、MEB をベースにして未来のコンパクトおよびミディアムサイズの電気自動車を開発しています。したがって、このプラットフォームは、アウディの電気自動車の製品ポートフォリオのエントリーモデルに採用されることとなります。

グループ全体で MEB プラットフォームを使用することにより、魅力的なデザイン、高品質なインテリアの仕上げ、最先端の操作システムに代表されるアウディの DNA を受け継いだ電気自動車を、手頃な価格で提供できるようになります。グループ全体でプラットフォームを使用することにより、相乗効果を最大限に活用して、コンパクトセグメントにおいて数多くの新しいお客様を魅了することに



なるでしょう。フォルクスワーゲングループの MEB プラットフォームは、非常に汎用性が高く、高い拡張性も備えています。このプラットフォームは、SUV、クロスオーバーからセダンに至るまで、幅広いモデルに対応しています。

MEB は、電気自動車専用に設計されているため、コンパクトな電気モーターと様々な容量のリチウムイオンバッテリーを組み合わせたモデルを提供することが可能です。バッテリーシステム、電気モーター、アクスル設計により、高度な技術ツールキットが形成されています。内燃エンジンを備えた現在のモデルとは対照的に、フロントオーバーハングはかなり短く、フロントアクスルとファイアウォールが前方に移動し、ホイールベースと利用可能な室内スペースが大幅に広がっています。

2019 年 3 月、アウディはジュネーブモーターショーで生産モデルに近いコンセプトカー、Audi Q4 e-tron concept を発表しました。このクルマは、MEB プラットフォームをベースにした最初のアウディで、従来型のエンジンを搭載した Audi Q3 と同じセグメントに収まるコンパクト SUV です。4.59m の全長は、コンパクトクラスとしては比較的大きな部類に入ります。しかし、2.76m の長いホイールベースにより、そのインテリアは少なくともミディアムサイズクラスのスペースを備えています。室内長に関して、MEB の各モデルは、1 つ上のカテゴリのクルマと同等のスペースを実現しています。つまり、Audi Q4 e-tron concept のボディサイズは、Audi Q3 と同等ですが、Audi Q5 と同レベルの室内寸法を提供します。ダッシュボードには、新しいデザインコンセプトが採用されています。

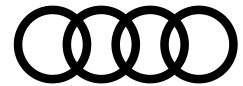
もちろん、MEB プラットフォームは、様々なパフォーマンスレベルと駆動レイアウトも採用します。フロントおよびリヤアクスルに電気モーターを搭載した quattro 4 輪駆動に加え、エントリーレベルとして、リヤアクスルに搭載した電気モーターでリヤホイールを駆動する後輪駆動バージョンも用意されます。

ラグジュアリーモデルの新しい基盤：プレミアムプラットフォームエレクトリック（PPE）

アウディは、フルサイズクラスおよびラグジュアリーモデルに、4 番目のプレミアムプラットフォームエレクトリック（PPE）を採用します。PPE は、当初からポルシェと協力して開発が進められました。その特別なアーキテクチャーは、フルサイズおよびラグジュアリークラスのセグメントにおけるお客様の厳しいニーズを満たす、超近代的なテクノロジーに必要な条件を提供します。

PPE は、内燃エンジン用のモジュラーロングチューディナルプラットフォーム(MLB evo)に代わって、電気自動車に使用されます。このプラットフォームは、低いフロアだけでなく高いフロアの車両にも対応可能な、ハイテクかつ拡張性の高いアーキテクチャーを特徴としています。アウディは、PPE に基づいてさまざまなモデルシリーズを開発しています。その範囲は、各種 SUV、Sportback、Avant、クロスオーバーモデルなど、アッパーミディアムサイズからラグジュアリークラスまでをカバーしています。それにより、アウディはフルサイズクラスとラグジュアリーセグメントにおいても、数多くの電気自動車を追加して、現在の製品ポートフォリオを拡充する予定です。

PPE の技術パッケージは、MEB のパッケージと似ています。しかし、出力およびパフォーマンス面では、大きな可能性を提供します。標準的な構成では、リヤに 1 台の電気モーターが搭載されます。最上位モデルには、フロントアクスルに 2 台目の電動モーター（PSM または ASM）が搭載され、必



要に応じて 4 輪駆動を自動的に起動することができます。もちろん、PPE プラットフォームでも、様々なパフォーマンスレベルとバッテリー容量を設定可能です。これらのクルマは、高効率な熱管理システムと組み合わせることによって、Audi e-tron GT concept と同様に 800V の充電システムに対応しています。

PPE プラットフォーム（低フロア用）をベースにしたアウディ モデルの寸法とオーバーハングは、MLB ベースの現在の内燃エンジン搭載モデルよりも若干短くなりますが、室内長は逆に広がっています。電気自動車の特徴として、左右のフロントシート間にセンタートンネルはありません。従来のプレミアムモデルと同様に、PPE モデルには数多くのハイエンドテクノロジーを搭載することができます。駆動面ではトルクベクタリングによるトルク制御、サスペンション面ではアウディならではのエアサスペンションやオールホイールステアリングなどが提供されます。

本文中に掲載されているモデルの燃料消費量

(燃料消費量、CO₂ 排出量に関する数値は、ホイール／タイヤの組み合わせ、選択した装備によって変化することがあります。)

Audi e-tron 55 quattro :

複合モードにおける電力消費量 (kWh/100km) : 26.2~22.6 (WLTP)、24.6~23.7 (NEDC)

複合モードにおける CO₂ 排出量 (g/km) : 0

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。